

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	22-067	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Associations of Adolescent Alcohol Use and Self-Reported Alcohol Tolerance With Risk of Self-Harm and Suicide in Early Adulthood: A Birth-Cohort Study 青年期の飲酒および自己申告によるアルコール耐性と成人期早期の自傷・自殺リスクとの関連：出生コホート研究		
執筆者		
Levola J, Denisoff A, Mustonen A, Alakokkare AE, Miettunen J, Bramness JG, Niemelä S.		
掲載誌		
J Stud Alcohol Drugs. 2023 Mar;84(2):198-207. doi: 10.15288/jsad.22-00055.		
キーワード		PMID
自傷行為、自殺、飲酒、飲酒耐性、出生コホート研究		36971713
要旨		
<p>目的：初飲酒年齢 (AFD)、初酩酊年齢 (AFI)、15-16 歳時の飲酒中毒の頻度および生来のアルコール耐性と、将来の自傷や自殺の関連性の予測を検討することを目的とした。</p> <p>方法：北フィンランド出生コホート (NFBC) 1986 の参加者のうち 15-16 歳の男女を本研究の対象とした。33 歳までの自傷および自殺の情報を国立保健医療福祉研究所の医療ケア登録および死因登録データから得た。AFD と AFI が 14 歳以下の群と 14 歳以上あるいは非飲酒者又は酩酊経験なしの群 (参照群) に分類した。また、過去 30 日間の酩酊の頻度により低頻度 (1~2 回)、高頻度 (3 回以上)、酩酊なし (参照群) と分類した。生来のアルコール耐性は低~中耐性 (男性：9 杯未満、女性：7 杯未満) と高耐性 (男性：9 杯以上、女性：7 杯以上) に分け、酩酊経験なしを参照群とした。Cox 回帰を用いて AFD、AFI、酩酊頻度、アルコール耐性により分類した群の生存率を分析した。交絡因子は自傷又は自殺と関連 ($p < 0.1$) した場合に多変量モデルに含めた。自傷又は自殺の予測のため別の多変量モデルを作成し、ハザード比 (HR) と 95%信頼区間 (CI) を算出した。</p> <p>結果：対象者 7,735 人 (男性 49.8%) において、AFI\leq14 歳 (HR: 2.28, 95%CI: 1.16-4.47) およびアルコール高耐性 (HR: 3.76, 95%CI: 1.55-9.08) は自傷と正に関連していた。また、低頻度の酩酊 (HR: 3.44, 95%CI: 1.16-10.23)、高頻度の酩酊 (HR: 5.39, 95%CI: 1.44-20.23) およびアルコール高耐性 (HR: 6.20, 95%CI: 1.18-32.45) は自殺死亡と関連した。</p> <p>結論：アルコール高耐性、低年齢での AFI および酩酊の頻度は、成人早期の自傷および自殺の重要な予測因子であると考えられる。</p>		